

【ポスター発表】

母子世帯の母親の労働時間が母子に与える影響に関する研究

○ 神戸大学 氏名 大友 優子 (05121)

鈴木 勉 (佛教大学・01284)

[キーワード] 母子世帯、長時間労働、影響

1. 研究目的

日本の母親世帯の貧困問題は深刻であり、欧米各国との比較においても日本のシングルマザーは低収入を補うために顕著に仕事時間が長く、育児時間が短いという特徴がある。しかし、長時間に及ぶ就業中に残された子どもがどのような生活環境の中に置かれ、母子にどのような影響を与えているかについて、これまで殆ど調査されていない。そのため、本研究では、長時間労働による母子世帯の母親と18歳以下の子どもへの影響の有無や程度を明らかにすることを目的に実施する。

2. 研究の視点および方法

実施方法は、離婚率が高い地域にあり、若年母子世帯の加入率が高い地域にある母子世帯の当事者組織の協力のもとに、18歳以下の子どもを持つ当事者610人の会員を対象に自記式質問調査票を送付した。調査期間は2012年5月1日から5月31日であり、回答数は334人(回答率54.8%)、そのうち、有効回答数は329人(有効回答率53.9%)であった。

3. 倫理的配慮

調査対象者には本研究の趣旨を説明し、同意を得た上で調査を実施した。また、学会の倫理指針に従い、調査対象者・地域・団体等が特定できないように匿名化した。

4. 研究結果**1) 回答者の属性**

平均年齢は42.15歳で平均の子どもの数は1.5人であった。最後に卒業した学校は、「高校」51.4%が最も多く、次いで「短大・高専」33.7%などの順であった。

現在、収入を伴う仕事をしている人は281人(85.4%)、していない人は48人(14.6%)であった。勤めや自営の内容は「パート・アルバイト」96人(34.2%)が最も多く、次いで「正規の職員・従業員」88人(31.3%)、「契約社員・嘱託」46人(16.4%)などであった。職業別では、「事務的」90人(32.0%)が最も多く、次いで「専門的・技術的」68人(24.2%)、「サービス」46人(16.4%)などであった。仕事上の1番の悩みは、「賃金が低い」106人(37.7%)が最も多く、次いで「就労が不安定」79人(28.1%)であった。週あたりの労働時間は「40～50時間未満」と「30～40時間未満」を合わせて6割を占めた。

40時間以上が4割、50時間以上も1割あった。就労による月収（手取り）は、10-15万円未満が5割と最も多く、次いで10万円未満と15-20万円未満が各2割であり、20万円未満が9割を占めた。副業を持っていない人は237人（84.3%）、持っている人は38人（13.5%）であった。

2) 長時間労働による母子世帯の母親と子どもへの主な影響

週40時間以上の長時間労働をしている118人（仕事を持つ者281人中42.0%）が回答した結果は以下のとおりであった。長時間労働をしている理由は、「職場から要求される業務量が多い」47人（39.8%）、「勤務が1日8時間と規定されている」35人（29.7%）、「職場の人員削減により業務量が増えた」25人（21.2%）、「時給制のために収入を増やす必要がある」21人（17.8%）、「複数の仕事を持っているため」15人（12.8%）、「管理職のために自分の業務以外に部下の業務を見る必要がある」13人（11.0%）であった（複数回答あり）。

長時間労働による自分への悪影響の有無はあると回答した95人に自分への悪影響の種類を尋ねたところ、「仕事の疲れがとれない」73人（76.8%）、「家事や育児時間がとれない」60人（63.2%）、「趣味や余暇を過ごす時間がない」55人（58.0%）、「睡眠不足が続く」41人（43.2%）、「生活が不規則になる」38人（40.0%）、などの順であった。長時間労働をしているあなたの仕事に対して子どもはどのような感情を抱いていると思われるかを尋ねたところ、「仕方ない」82人（69.5%）、「さびしい」42人（35.6%）、「仕事を続けてほしい」25人（21.2%）などの順であった。

長時間労働をすることにより、子どもへの悪影響はあるかの問いに対し、「子どもへの悪影響あり」とした回答者は103人（87.3%）あり、そのうち子どもへの悪影響の種類を尋ねたところ、「子どもの勉強や習い事の成果を見る時間がとれないことが多い」63人（61.2%）、「自宅で子ども一人や兄弟姉妹だけで長時間過ごすことが多い」57人（55.3%）、「子どもだけで長時間テレビやテレビゲームで過ごすことが多い」48人（46.6%）、「子どもの生活時間が不規則になることが多い」47人（45.6%）、「子どもに家事を教える時間がとれないことが多い」46人（44.7%）、「子どもに手料理以外の食事を与えることが多い」45人（43.7%）、「子どもが病気になった時に病院付添や看護ができないことが多い」43人（41.7%）、「保育園や学校の行事に参加する時間がとれないことが多い」41人（39.8%）、「母子関係が希薄になっている」39人（37.9%）などであった。

5. 考察

長時間労働による本人や子どもへの悪影響を自覚している者は8割以上にのぼり、本人のみならず母子双方の生活の不規則さや身体面や精神面、教育面等における影響が懸念される結果となった。